

平成 30 年 9 月 8 日
J R A 報 道 室

お 知 ら せ

企画展

「猪熊弦一郎展 馬と女性たち」開催のご案内

馬の博物館

猪熊弦一郎（1902—1993）の作品は、身近なものから人の顔、動物、都市、宇宙にいたるまで様々なモチーフにあふれています。本展は、その中から「馬」と「女性」の絵を集めた展覧会です。

猪熊は馬について「神様が作られた作品の中でも傑作の中の傑作」と述べ、また女性についても「あんなに完全にバランスをもった美しい立体はない」と語りました。画家にとって馬と女性は魅力に満ちたモチーフだったのでしょう。両者は組み合わせて描かれることで、画家にさらなる美しさを見出されました。

本展では、そうした猪熊の美意識に注目しつつ、初期の写実絵画から晩年の自由なスタイルまで、ダイナミックに変貌する作品をご紹介します。馬と女性たちが織り成す色と形の世界をご堪能ください。

展 覧 会 名： 猪熊弦一郎展 馬と女性たち
会 期： 2018 年 10 月 6 日（土）～12 月 2 日（日）
開 館 時 間： 10:00～16:30（入館は 16:00 まで）
会 場： 馬の博物館 第 2・3 展示室
休 館 日： 月曜日（ただし 10 月 8 日は開館）
入 館 料： 大人 200 円 小・中・高校生 30 円 団体（20 名以上）半額
※毎週土曜日は小・中・高校生無料
※障がい者手帳をお持ちの方は無料
主 催： 公益財団法人 馬事文化財団
特 別 協 力： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団
後 援： JRA 日本中央競馬会

【猪熊弦一郎略歴】

画家。1902年香川県生まれ。東京美術学校で藤島武二に師事。戦前フランスに游学しアンリ・マティスに学ぶ。1955年再びパリ留学を志し日本を発つが、途中立ち寄ったニューヨークの熱気に惹かれ、約20年間同地で制作する。渡米を機に作風は具象から抽象へと変化。帰国後は東京とハワイを拠点に活動し、晩年は抽象と具象の枠組みを超えた独自の画境に到達した。1991年故郷に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年90歳で逝去。生涯現役で新しい表現に挑み続けた。JR上野駅の大壁画《自由》や三越百貨店の包装紙デザインでも知られる。



猪熊弦一郎

撮影者：高橋章

【見どころ】

◆ 馬と女性

猪熊弦一郎がとりわけ造形美を感じていた「馬」と「女性」をモチーフとした作品のみで構成された展覧会。猪熊はよく馬と女性を組み合わせで描きました。組み合わせることで、さらなる美を感じたのでしょうか。

◆ 作品の変遷

約90点の絵画作品を通して、初期から晩年まで画風がダイナミックに変貌する様子がわかります。馬や女性の描かれ方の変化をお楽しみください。

◆ 色や形の世界

猪熊は色や形に強くこだわっていました。馬や女性はモチーフとして意味を持つというよりも、多くは色や形の集合体として描かれています。馬と女性たちが織り成す様々な色と形の世界をお楽しみください。

【会期中のイベント情報】

◆ ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 午後2時より

(実施日／10月13日、10月27日、11月10日、11月24日)

展覧会担当学芸員による本展の展示解説です（約30分間）。

自由参加、当日の入館券が必要。

【主な展示資料】

1



題名不明

1987年 アクリル・紙

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

2



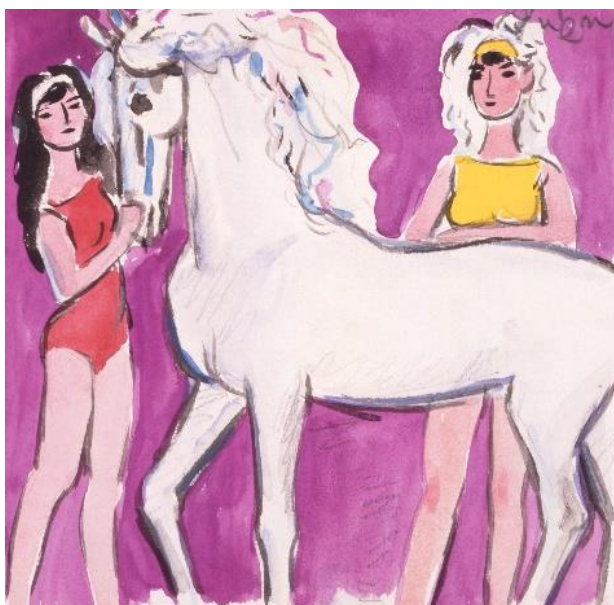
《サクラambo》

1939年 油彩・カンヴァス

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

3



《七月の馬》

1966年 水彩・紙

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

4



題名不明

1985年 アクリル・紙

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

イベントの詳細につきましては[馬事文化財団ホームページ](http://www.bajibunka.jrao.ne.jp/uma/event/event_20180831.html)（外部サイトに接続）の掲載内容をご覧ください。

リンク先 http://www.bajibunka.jrao.ne.jp/uma/event/event_20180831.html

上記の展示内容及びプレスリリースに関する問い合わせ先
公益財団法人馬事文化財団 企画広報課 (Tel: 045-662-7581)